

2020年度 第2回 京大本番レベル模試 国語(文) 採点基準

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B
a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C
次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

京大本番レベル模試

大問一 問一

■形式上の不備

- ・文末表現…要素D参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素D不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点…8点

■模範解答

A

日本論や日本人論で繰り広げられている日本賛美が、

B

日本の科学技術的優位や経済的優位が揺らぎつつある中で、

C

日本の進んだ科学技術を誇るものから、

D

日本の昔ながらの職人技や伝統芸を賛美するものに変わってきたということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄三行 一行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 日本論や日本人論で繰り広げられている日本賛美が…2点

・「日本回帰」が、もともと日本人がどういふ点で優れているのかということの説明がされていふものは、要素A加点点なし

・同意例…日本論などで展開されている、日本の優れた原点点が、

■要素B 日本の科学技術的優位や経済的優位が揺らぎつつある中で…2点

・「変わってきた」こと理由についての説明がされていふものは、要素B加点点なし

■要素C 日本の進んだ科学技術を誇るものから…2点

・変化の前の状況が説明されていふものは、要素C加点点なし

・科学技術が、世界と比べて先進的であるという説明がない場合、1点点減点点。

■要素D 日本の昔ながらの職人技や伝統芸を賛美するものに変わってきたということ

…2点点

・変化後の状況が説明されていふものは、要素D加点点なし

・職人技や伝統芸が、近代以前のものであるという説明が欠けている場合、1点点減点点。

・変化後の状況の説明がなく、数の増加についてのみ説明されているものは、1点点

・変化後の状況と、数の増加の両方ともが説明されているものは、2点点。

■形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点…10点

■模範解答

A

伝統とは、それまで存在していたある事象が喪失の危機に瀕した時に、それを守ろうとする意識とともに、

B

後から生み出されるものだが

C |

「江戸しぐさ」なる伝統は、日本の道徳の優位性を誇ろうとする意識によって、

D

存在していなかったものをあたかも存在していたかのようにして、

E

後からでっち上げたものだということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄五行二行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 伝統とは、それまで存在していたある事象が喪失の危機に瀕した時に、それを守ろうとする意識とともに…2点

・筆者が考える「伝統」のあり方についての説明がされていないものは、要素A 加点なし

■要素B 後から生み出されるものだが…2点

・要素Aの「伝統」は「あとから創造される」ものであることの説明がされていないものは、要素B 加点なし

・創造への言及にとどまり、「あとから」などの指定がない場合1点減点

・同意例…事後的に創造されるものだが

■要素C 「江戸しぐさ」なる伝統は、日本の道德の優位性を誇ろうとする意識によって…2点

・要素Aと要素Bの「伝統」に対して、「江戸しぐさ」が「日本の道德の優位性を誇るためのもの」であることについての説明がされていないものは、要素C 加点なし

■要素D 存在していなかったものをあたかも存在していたかのようにして…2点

・要素Aと対比的に、「江戸しぐさ」はもともとなかったということについて説明がされていないものは、要素D 加点なし

■要素E 後からでっ上げられたものだということ…2点

・要素Bと対比的に、「江戸しぐさ」は捏造されたものであることについて説明がされていないものは、要素E加点なし

・「後から」に相当する内容がない場合、1点減点。

大問一 問三

形式上の不備

- ・文末表現…要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点…6点

■模範解答

A

国のアイデンティティを考える時に、

B

アメリカであるならば、国名としての「アメリカ」と聞くと、

C

即座に「自由」というイメージが強く連想されるということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄二行一行以下のもは全体不可（0点）

■要素A 国のアイデンティティを考える時に…2点

- ・何に対して「自由」が「追いかけてくる」のかについての説明がされていないものは、要素A加点数なし

■要素B アメリカであるならば、国名としての「アメリカ」と聞くと…2点

・どういう時に「自由」が「追いかけてくる」のかについての説明がされていないものは、要素B加点数なし

「国名としての『アメリカ』」という点に踏み込めていなければ一点の加点数にとどめる

■要素C 即座に「自由」というイメージが強く連想されるということ：：2点

・「追いかけてくる」という表現を一般化していないものは、要素C加点数なし

形式上の不備

- ・文末表現…要素E参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素E不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点…12点

■模範解答

A
日本のアイデンティティを考える際に、

B
人々は様々な時期における、複数のイメージを想定するが、

C
日本は連続する国名としては千年を越える長い歴史を持つために、

D
想定される複数のイメージに共通性を見出すことは難しく、

E
そもそも、アイデンティティを決める際、その基準をどこに置くかが決めがたいということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄五行二行以下のもは全体不可(0点)

■要素A 日本のアイデンティティを考える際に…2点

- ・(問三で確認したアメリカのアイデンティティに対して、)日本のアイデンティティがどういったものであるかについて説明がされていないものは、要素A加点数なし

・同意例:「日本らしさを考える時に」「日本の本質を考える際に」と「アイデンティ

ティ」を「らしさ」や「本質」としてもよい(要素B以降も同様)

■要素B 人々はさまざまな時期における、複数のイメージを想定するが…2点

・日本のアイデンティティは人によって異なるものをイメージするという点について説明がされていないものは、要素B加点数なし

・同意例…時代によってイメージが異なるが、

■要素C 日本は連続する国名としては千年を超える長い歴史を持つために…2点

・(問三で確認したアメリカの歴史に比べて、)日本の歴史が長さを持っている点について説明がされていないものは、要素C加点数なし

■要素D 想定される複数のイメージに共通性を見出すことは難しく…3点

・要素Bと要素Cであるために共通性が見出せない点についての説明がされていないものは、要素D加点数なし

■要素E そもそも、アイデンティティを決める際、その基準をどこに置くかが決めがたいとい

うこと…3点

・傍線部「物差しからして一つに定まらない」を言い換えていないものは、要素E加点数なし

・同意例…アイデンティティを決める基準が定めにくい

・同意例…アイデンティティを決めることは難しい

大問一 問五

形式上の不備

- ・文末表現…要素F参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素F不可
- ・句点の扱い…1点減点

基準 配点…14点

模範解答

A

天心は、大量殺戮が可能な近代的戦争を行う国こそが文明国であるとする

B

近代西洋の見方を否定する

C

と同時に、平和な中で文学芸術を創造し続けていくという美的・感性的な面にこそ

D

日本のアイデンティティがあるとし、

E

急速に近代化して戦争に邁進し、文明国の一員となろうとする

F

日本のあり方をも否定的に断定したということ。

採点方法…各要素単独採点

■字数…解答欄五行二行以下のものは全体不可(0点)

■要素A 天心は、大量殺戮が可能な近代的な戦争を行う国こそが文明国であるとする
…2点

・西洋における「文明国」の定義についての説明がされていないものは、要素A加点なし
・「天心」という主語を明示していない場合、1点減点。

■要素B 近代西洋の見方を否定する…2点

・天心が要素Aの定義を否定したことについての説明がされていないものは、要素B加点なし

・同意例…西洋の見方は関係なし

■要素Cと同時に、平和な中で文学芸術を創造し続けていくという美的・感性的な面にこそ…3点

・天心の考える日本のアイデンティティの内容の説明がされていないものは、要素C加点なし

・「美的・感性的な面」といったニュアンスの内容がない場合、2点減点。

■要素D 日本のアイデンティティがあるとし…3点

・要素Cが天心の考える日本のアイデンティティであることについての説明がされていないものは、要素D加点なし

■要素E 急速に近代化して戦争に邁進し、文明国の一員となろうとする…2点

・「返す刀」で斬り捨てたものが、当時の日本が選択した方向性であることについての説明がされていないものは、要素E加点なし

・「文明国の一員になろうとする」とは近代化し、戦争に邁進することだという内容がない場合、2点減点。

■要素F 日本のあり方をも否定的に断定したということ…2点

・「返す刀で斬って捨てた」という表現を一般化していないものは、要素F加点数なし

・「返す刀」の説明として、「同じ考えに基づいて」等も○

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文（章）の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 漢字の誤り、送り仮名の誤り、句点の抜けについては、一つごとに1点減点する。

問一

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例

作者が自己に固有の風土を美しく見事にとらえて	A	豊かな韻律で表現し	B	普遍性を獲得した短歌を	C	享受した	D
------------------------	---	-----------	---	-------------	---	------	---

が、作品の示す風土の見方への同調を促されるということ。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「（作者が）自己に固有の風土を美しく見事にとらえて」…2点

■要素B 「豊かな韻律で表現し」…2点

■要素C 「普遍性を獲得した短歌」…2点

* A・B・Cは、本文の表現をそのまま使っている。全てについて同意の説明がなされていると判断するならば2点与えてよい。説明が曖昧であると判断されるならば1点だけ与える。

■要素D 「享受した者が、作品の示す風土の見方への同調を促される」…2点

- ・「享受者」は「読者・読む者・受け取り手」などでも可。
- ・本文は「そこへ同調して行く心をおさえがたい」となっている。ほぼ本文そのままの言い方でもよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点だけ与える。

例 風土の見方が固定化されているとだけあり、影響が何によって及ぼされているか明らかでない場合

■要素E 文末は原則として「〜ということ」となっていればよい。「〜から・ので」など明らかにズレた形の場合は1点減点。

問二

・文末表現は要素E参照

基準 配点8点

■模範解答例

A 芸術は単に自然の美を作品に表現するものではなく、芸術表現が自然を分節化することで、自然が情報化
さ | B C

D
れコード化され、人間の自然観を固定していくということ。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A 「芸術は単に自然の美を作品に表現するものではなく」…2点

■要素B 「芸術表現が自然を分節化する」…2点

・説明が曖昧であると判断される場合（「分節化」を「細分化」としている場合など）は1点だけ与える。

■要素C 「自然か情報化されコード化され」…2点

・「情報化」「コード化」のいずれか一つしか示していない場合は1点。

■要素D 「人間の自然観を固定化していく」…2点

・芸術が人間の自然観を左右することが書けていればよい。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点だけ与える。

■要素E 文末は原則として「〜ということ」となっていればよい。「〜から・ので」など明らかにズレた形の場合は1点減点。

基準 配点12点

■模範解答例

A ① B C

人間の現実感覚においては、等値される四つの季節が循環しているわけではなく、まず確かな存在感を持つ

D

E

A ②

ら | 夏と冬があり、春と秋はあるかないかの移行相として、その二季の間に境界的に存在しているように感じられるから。

■採点方法…各要素単独採点

■要素A①② 「人間の現実感覚においては、…感じられる」…1点

・傍線部の「美の規範」が人間の感じ方、感覚からズレているというニュアンスが答案のどこかから読み取れたなら1点与えてよい。どのような言い方でもかまわない。

■要素B 「等値される四つの季節が循環しているわけではなく」…2点

・説明の仕方は広く許容し、春・夏・秋・冬の四季が等しい存在感を持つわけではないことが明示されていれば2点与える。

・「等値」ではなく「等置」も○

・何とかニュアンスが読み取れるという程度なら1点。

■要素C 「確かな存在感を持つ夏と冬があり」…3点

・「目立っているのは夏と冬である」という本文の表現そのままでもよい。

■要素D 「春と秋はあるかないかの移行相として」…3点

・本文には「ごく短い、あるかないかの移行相」とある。「ごく 短い」「あるかないか」とあるだけで「移行相・移行期」といった語がなければ1点だけ与える。

■要素E 「その二季（夏と冬）の間に境界的に存在している」…3点

・とにかく「境界」という語を使った正しい説明なら3点与えてよい。

■要素F 文末は「くから・ので・ため」など理由説明の形になっていること。そうならないなら1点減点する。

基準 配点 1 2 点

■ 模範解答例

A 暦を基準とした 人工的な季の分類である季語によって四季を細分化するという、非現実的な擬制に基づいた風土の見方。
 B
 C
 D
 E

■ 採点方法・各要素単独採点

■ 要素A 「暦を基準とした」…2点

- ・四季の分類基準が暦に基づいているということが読み取れさえすれば2点与えてよい。

■ 要素B 「人工的な季の分類である季語によって四季を細分化する」…3点

- ・四季の分類基準が人工的なものであるということが読み取れることで2点。
- ・具体的な分類基準としての季語の存在に言及できていることで1点。
- ・「細分化」はなくてもよいが、説明が曖昧であると判断される場合は1点だけ与える。
- ・「四季を細分化」ではなく「認識を細分化」と書いても○

■ 要素C 「非現実的な擬制に基づいた」…2点

- ・本文には「季語が、一つの擬制である」とある。A・Bに示した分類基準が擬制であるということが答案から読み取れさえすれば2点与えてよい。
- ・「非現実的」のみなら1点。

■ 要素D 「既成の伝統的ワク組みに自らを同化させ」…3点

- ・本文の「既成の伝統的ワク組みに自らを同化する」をほぼそのまま使っている。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点だけ与える。

■ 要素E 「自然な感性的認識を抑圧したところに成立していた」…2点

- ・本文の「明治以降の短歌は、…感性的のうけとる与件を大切にしようとして来た」を裏返して説明したもの。自分のの感性と食い違っても既成の伝統的ワク組みを優先させるということが説明されていれば2点与えてよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点だけ与える。

■ 要素F 「…という（風土の）見方」という文末形式が原則。但し、答案全体が、風土の見方についての説明になっていると判断できれば許容してよい。「…ので・から」など、明らかにズレていると判断される場合は1点減点。

基準 配点10点

■ 模範解答例

A | | | B | | | C |
時間の移行帯や空間の境界領域のような 両義的・両価的な要素を持つ位置に立って、 聖なる時間の訪れを
D | | |

感受し、畏怖すべき聖なる世界を彼方に遠望すること。

■ 採点方法…各要素単独採点

■ 要素A 「時間の移行帯や空間の境界領域のような」…3点

- ・ 時空間をまとめて「境界（領域）」と説明している場合は2点与える。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点だけ与える。

■ 要素B 「両義的・両価的な要素を持つ位置に立って」…3点

- ・ 「両義的」か「両価的」のいずれか一つが示されていれば3点与えてよい。

■ 要素C 「聖なる時間の訪れを感受し」…2点

- ・ 「聖なる時間」さえあれば2点与えてよい。

■ 要素D 「畏怖すべき聖なる世界を遠望する」…2点

- ・ 「聖なる世界（空間・存在）」といった表現さえあれば2点与えてよい。

■ 要素E 文末は原則として「〜ということ」となっていればよい。「〜から・ので」など明らかにズレた形式の場合は1点減点。

※要素AとCとDに関して、（模範解答では海と山にのみ書かれているが、海と山の話に限らず、）昼と夜、夏と冬の移行帯について説明しているものも点数を与えてよい。

三 古文 50点

◆各設問共通

▲内容説明の設問では、末尾の句点がないものは▲1点減点。ただし、現代語訳の設問では、句読点は不問。

問一(1) 10点

※傍線部(1)を、言葉を補いつつ現代語訳する設問

(模範解答)

A○3点

このように紫の上が思い悩んでいらっしやるせいであろうか、

B○4点

源氏の夢に紫の上が現れなされたので、

C○3点

源氏はふと目をお覚しになって、

◆各加点要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 「(このように)紫の上が思い悩んでいらっしやるせいであろうか」(3点)

※「思ひ乱れたまふけにや(あらむ)」の訳(尊敬語のニュアンスが必要・「このように」の部分は不問) 尊敬のニュアンスがない場合1点減点

×「思い悩んで(思い惑う・心が乱れる・思い乱れる)いらっしやるせいであろうか」というような記述がなければ×

※「思ひ乱れたまふけにや(あらむ)」の主体

△「紫の上」という主体がない、あるいは主体を取り違えている場合は1点減点。

B 「源氏の夢に紫の上が現れ(見え)なされたので」

(4点)

※「御夢に見えたまひければ」の訳（尊敬語のニュ

アンスが必要・「原因・理由」の訳必須・接頭辞「御」

の訳は不問）

×「夢に現れ（見え）なされたので」というような記述がなければ2点減点

主体を取り違えていても、「夢に現れ（見え）なされたので」という記述があれば2点は与える

※「御夢に見えたまひければ」の主体

△「紫の上が（現れ・見え）」という主体がなければ1点減点。

※「御夢」の所有者

△「（光）源氏の（夢）」という記述がなければ1点減点。

C 「源氏はふと目をお覚しになって」（3点）

※「うちおどろきたまひて」の訳（尊敬語のニュアンスが必要・接頭辞「うち」の訳は不問）

×「（ふと）目をお覚しになって」というような記述がなければ×

△尊敬のニュアンスが無い場合1点減点。

※「うちおどろきたまひて」の主体

△「（光）源氏」が主体だと分からなければ1点減点。

問一 (3) 10点

※傍線部(3)を、言葉を補いつつ現代語訳する設問

(模範解答)

A ○ 3点

紫の上に仕える女房たちも寝たふりなどをしては、

B ○ 3点

しばらく源氏をお待たせ申しあげてから、

C ○ 4点

(紫の上に仕える女房たちは) ようやく格子戸を引き上げた。

◆各加点要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 「紫の上に仕える女房たちも寝たふりなどをしては」(3点)

※「空寝をしつつ」の訳(「つつ」は「…をしては」「…をして」等、反復継続・単純接続の意味なら良い)

×「寝たふりなどをしては」というような記述がなければ2点減点。

※「人びとも」の意味

△「紫の上に仕える女房たちも・紫の上の女房たちも」という記述がない、あるいは主体を取り違えている場合は1点減点。

B 「しばらく源氏をお待たせ申しあげてから」(3点)

※「やや待たせたてまつりて」の訳(謙譲語のニュアンスが必要・「やや」は「しばらく・少し」等の意)

×「しばらく源氏をお待たせ申しあげてから」というような記述がなければ2点減点。

○「お待たせして」は謙譲のニュアンスを含む表現として許容。

※「やや待たせたてまつりて」の客体

△「(光)源氏」という客体が無い、あるいは取り違えている場合は1点減点。

C 「紫の上に仕える女房たちは) ようやく格子戸を引き上げた」(4点)

※「引き上げたり」の訳(接頭辞「うち」の訳は不問)

× 「(ようやく格子戸を) 引き上げた。」というような記述がなければ2点減点。

※ 「引き上げたり」の主体

△ 「紫の上に仕える女房たちは・紫の上の女房たちは」が主体だと分かなければ1点減点。

※ 「引き上げたり」の客体

△ 「格子戸・薮戸・半薮」という客体がない、あるいは取り違えている場合は1点減点。

問一(4) 10点

※傍線部(4)を、言葉を補いつつ現代語訳する設問

(模範解答)

A ○ 3点

紫の上は、親しみを失うことなく振舞ってはいるものの、

B ○ 3点

源氏にまったく心を許しているわけではない、

C ○ 4点

そんな紫の上のお心遣いなどは、まったく凜としていて魅力的である。

(10点)

◆各加点要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 「紫の上は、親しみを失うことなく振舞ってはいるもの」(3点)

※「なつかしきものから」の訳(「ものから」は「…もの」「…けれど」「等、逆接の意味なら良い」)

×「親しみを失うことなく振舞ってはいるもの・慕わしい様子だけれど・心惹かれる様子ではあるが・魅力的であるが」というような記述がなければ×

※「なつかしきものから」の主体

△「紫の上は」という記述がなければ1点減点

B 「源氏にまったく心を許しているわけではない」(4点)

※「うちとけてはたあらぬ」の訳(「はた」は「決して…ない」「まったく…ない」等の意味なら良い)

×「まったく心を許しているわけではない・決して油断してはいない・決して心の隔てをなくしているわけではない」というような記述がなければ2点減点。

※「うちとけてはたあらぬ」の客体

△「(光)源氏を・(光)源氏に」という客体がなければ1点減点。

C 「まったく凜としていて魅力的である」(4点)

※「いとほづかしげに」の訳(「いと」の訳は「本当に・なるほど・たいそう」等)

× 「はづかし」立派だ・すばらしい・凛としている・美しい・感心だ」というような記述がなければ1点減点。

※ 「をかし」の訳

△ 「をかし」見事だ・すぐれている・風情がある・愛らしい・趣がある」というような記述がなければ1点減点。

※ 「御用意など」の訳

△ 「お心遣いなどは」というような記述がなければ1点減点。

※ 「御用意など」の所有者

△ 「紫の上の（お心遣いなどは）」というように記述がなければ1点減点。

問二傍線部(2)の引歌で、この乳母はどのようなことを言っているのか、説明せよ。

(模範解答)

A ○ 4点

新婚の婿であるはずの源氏本人は、新妻の女三の宮のもとから出て行ってしまっ

B ○ 3点

その姿はここに見えないが、その残り香だけはつきりと残っているとは

C ○ 3点

何とも不条理であるということ。

◆各加点要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 「新婚の婿であるはずの源氏本人は、新妻の女三の宮のもとから出て行ってしまっ
(4点)

※「名残までとまれる御匂ひ」という内容理解

×「源氏は、女三の宮のもとから出て行ってしまった」というような記述がなければ3点減点。「女三の宮のもとから」ということが全体として読み取れない場合は1点減点。

※「源氏が三日夜を終えた早朝」という状況の理解

△「新婚の婿であるはずの(源氏)」というような記述がなければ1点減点。

新婚の婿と直接明示できていなくても、「新妻」などの表現があつて、その婿という事で新婚の事実が示されていれば可

B 「姿はここに見えないが、残り香だけはつきりと残っている」(3点)

※「色こそ見えね香やは隠るる」の隠喩の理解

×「姿はここに見えないが、残り香だけはつきりと残っている」というような記述がなければ×。

香りを残した主体を光源氏以外と誤って捉えている場合1点減点

C 「何とも不条理であるということ。」(3点)

※「あやなし」の意味

×「不条理である・筋が通らない・理屈に合わない・わけがわからない」というような記述がなければ×。

問三傍線部(5)は、女三の宮の乳母が、源氏の使者に対して伝言を託したということであるが、この乳母はどうしてこのような態度をとったのか、説明せよ。

(模範解答)

A ○ 4点

手紙には文書で返事を返すのが礼儀だが、わざと素っ気無い態度をとって

B ○ 4点

三日夜を終えたばかりなのに、風邪を口実に紫の上のところにとどまるという文面に

C ○ 2点

憤り、源氏に抗議の意を示そうとしたから。

◆各加要素の加点の条件【A・B・Cに関して部分採点】

A 「手紙には文書で返事を返すのが礼儀だが、わざと素っ気無い態度をとった」(4点)

※「御乳母：言葉に聞こえたり」の理解

×「手紙には文書で返事を返すのが礼儀だが、わざと素っ気無い(無礼な)態度をとった」というような記述がなければ4点減点。

B 「三日夜を終えたばかりなのに、風邪を口実に紫の上のところにとどまるという文面に」(4点)

※「源氏の御消息『今朝の雪に心地あやまりて、いとなやましくはべれば、心やすき方のためらひはべる』」の内容理解

×「三日夜を終えたばかりなのに、風邪を口実に紫の上のところにとどまるという文面」というような記述がなければ×。

C 「憤り、源氏に抗議の意を示そうとしたから。」(2点)

※「女三の宮の乳母の行動・心理」の理解

×「源氏に抗議(非難・反駁・反発・難詰・批判・責め咎める)の意を示そうとした」というような記述がなければ2点減点